

令和 7 年度

# 「運営に関する計画」

最終評価

たくましく希望に満ちた学校をめざして  
～ 夢 きずな 輝き ～



大阪市立西天満小学校

令和 8 年 2 月

大阪市立西天満小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

Ⅰ 学校運営の中期目標

**本校の現状と特色ある取組**

本校は、明治 5 年（1872 年）に創立され、今年度で創立 153 年を迎える。「子どもは地域の宝物」とあるという地域の熱い思いと労を惜しまない支援・協力が本校教育に注がれ、歴史と伝統を積み重ねて今日に至っている。

本校では、学校教育目標に「心身ともにたくましく伸びる子どもを育てる」を掲げ、「考える子」「やさしい子」「がんばる子」の育成をめざしている。

ここ数年で児童数が急増し、今年度の在籍児童数は 298 名。すべての学年が 2 学級となって 4 年目である。いろいろな背景をもった子どもが増えてきたが、教職員数も増え、学級担任だけでなく専科教員やサポーターなど多くのスタッフが子どもたちに関わりながら、子どもたち一人一人を大切にしている教育活動を進めている。

子どもたちの全体的な特徴は、力を入れて指導すればそれに応えて大きな力を発揮できる子が多いこと、また、素直に一生懸命ががんばることができる子が多いことだと認識している。家庭での教育力の高さも、その要因の一つとなっていると考えている。

本校の特色ある主な取組を以下に紹介する。

**(1) 地域の人々と結びついた教育活動を進めている。**

地域の人々と児童との出会いを大切に、教育活動での結びつきを深めている。自分たちの住んでいる地域のことを知り、地域を愛し、誇りに思う資質を備えた児童を育てるような様々な取組を進めている。創立 150 周年を機に、これまで国語科で培ってきた読解力や表現力、各教科領域で身に付けた問題解決能力を総動員して、自分たちの住んでいる町の歴史や文化等について探求し、表現できる力を育ててきた。今後も自分の学校や町に誇りをもち、地域や社会の発展に寄与する態度や社会の平和を願う心を育てられるよう、生活科や総合的な学習の時間を中心に継続して学習活動を進めていきたいと考えている。

**(2) 日記「たくましくのびていこう」を通して、表現力を育てている。**

全校児童が毎日日記を書き、可能な限り担任がコメントを記したり、サインをしたりして、その日のうちに返却している。1 日 1 ページ、月に 1 冊のペースで年間 12 冊、6 年間で 72 冊の日記帳を書くことになる。これは、今年度で 60 年目を数える全国にも例のない実践である。卒業生の中には、72 冊の日記帳を「心のアルバム」として今も大切に保管している方がおられたり、親子二代にわたって日記に取り組んだという家庭もあつたりする。この実践は児童の書く力を確実に育て、言語活動の充実につながっている。さらには、児童の生活実態や友人関係などを知る手掛かりとなり、いじめの防止等の生活指導にも活かされている。

**(3) たてわり活動を通して互いに思いやり、認め合う集団を育てている。**

春の全校遠足や年間を通じた集会活動等で縦割りの活動を充実させ、上級生が下級生を導き、助け合い、協力し合うことで、学年を越えたつながりが育ち、互いを思いやる気持ち

が育っている。

#### **(4) 我が国の伝統文化を大切にした教育活動を進めている。**

我が国の伝統文化を学ぶことにより、我が国のよさを知るとともに、国際社会で生きる資質につなげるため、琴・和太鼓・書等に取り組んでいて、地域の方にもゲストティーチャーとして参画していただいている。

また、校区には教育資源が豊富にあり、大阪天満宮、堀川戎神社、中央公会堂、こども本の森、天神橋筋商店街など、全国的に有名な文化財等が多数存在する。地域の学習を通して、地域を愛し、地域を担う人材を育成することにも力を注いでいる。

#### **(5) 漢字能力の向上に努めている**

児童の漢字に対する興味関心を高め、漢字能力の向上に資するため、全校で漢字検定に取り組んでいる。各自の能力に応じた級を受検することとし、全児童が合格をめざして意欲的に漢字を学習している。その成果として、漢字検定協会による「優秀団体賞」をこれまで8度受賞している。

#### **(6) 「あいさつ」を通じて明るく元気な学校づくりに努めている。**

あいさつは仲良くなるための第一歩であり、人を大切にする気持ちや感謝の気持ち、コミュニケーションの基本、心身の健康、明るい学校づくりなど、大切な要素が多く含まれている。人と人とのつながりが希薄になりがちな現代社会でこそ、子どもたちに身に付けさせたい大切な習慣であり、財産になるものと考え。子どもたちと教職員との共通の目標とし、児童会による「あいさつ運動」などの自発的な活動を通して全教職員で指導を進めている。

### **本校の課題**

#### **(1) 望ましい人間関係の構築**

相手の気持ちを考えずに発言してしまったり、自分本位に行動してしまったりする児童が、少数ではあるが見られる。学校という集団生活を営む場において、望ましい人間関係を構築するために大切なことは何かということ、しっかりと捉えさせていく必要がある。

#### **(2) 不登校・不登校傾向の解消**

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校休業明けから、登校しにくい児童が見られるようになった。学級担任からさまざまに働きかけたり、カウンセリングを受けたり、関係機関に相談したりしているが、解決が難しい事案もある。

#### **(3) 学力における二極化の解消**

全国学力・学習状況調査や大阪市小学校学力経年調査、大阪府すくすくウォッチなど、平均点だけを見ると大変良い結果が出ているが、細かく分析してみると、どの学年にも市の平均点に届かない児童が見られる。

#### **(4) ICT を活用した教育のさらなる推進**

新型コロナウイルス感染症の影響で GIGA スクール構想が前倒しとなり、この5年間で ICT 教育環境が激変した。全学年において、デジタルドリルの活用を行うようになるとともに、児童の発達段階に応じて、Teams や多肢選択問題を用いた学習ゲームシステムを活用した協働的な学習にも取り組んでいる。ICT 教育環境が整うことは学校現場としても大変ありがたいことであるが、1人1台 PC にアンケート機能や相談機能等の様々な機能が加わり、教員と児童が全ての機能を使いこなしていくためには、工夫を凝らした取組を進めていかなければならない。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を増加させない。
- 小学校学力経年調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 45%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率をいずれの学年も毎年全国値を 5ポイント以上上回るようにする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 【ICTの活用に関する目標】

- 1人1台学習者用端末の年間活用率を 90%以上にする。

#### 【教職員の働き方改革に関する目標】

- 夏季休業中等の学校閉庁日を 10日以上設定し、教職員が働きやすい環境を整備し、長時間勤務の解消を図る。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 年度目標

#### **【安全・安心な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91%以上にする。
- 学校アンケートにおける「あいさつをしている」の項目において、児童の肯定的な回答の割合 95%以上を維持する。

#### **【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 57%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 85%以上を維持する。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 80%以上を維持する。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 77%以上にする。
- 日本漢字能力検定を受検し、合格率を 90%以上にする。
- 学校アンケートにおける「必要に応じて手洗いをしていますか」の項目において、児童の肯定的な回答の割合 90%以上を維持する。
- 学校や地域について探求し、説明できる子どもを育てる。

#### **【学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 52%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。〕
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 85%以上にする。

## 大阪市立西天満小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート①）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を <u>95%以上</u>にする</li> <li>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</li> <li>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>91%以上</u>にする。</li> <li>○ 学校アンケートにおける「あいさつをしている」の項目において、児童の肯定的な回答の割合 <u>95%以上</u>を維持する。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1-1、いじめへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめのアンケート調査を定期的に実施し、当該児童からの訴えを的確に聞き取り、事後指導により解決できるようにする。また、いじめが発生したときは、「学校いじめ防止基本方針」に則り組織的に対応する。</li> <li>・ スクリーニングシートを活用し、数値の高い児童を中心に情報共有に努め、事態の把握に努める。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめのアンケートを <u>年 3 回</u>（学期に 1 度）実施、記録し、事後指導を行う。</li> <li>・ 年度当初に「学校いじめ防止基本方針」について、教職員内で共通理解を図る。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向 1-3、問題行動への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなが気持ちよく、楽しく学校生活を送れるよう、学校のきまりの大切さを知って守れるようにする。</li> <li>・ 暴力事件について教職員で共通理解し、区役所、SSW、SC などとの連携を図り、問題事象の解決を図る。</li> <li>・ また、大きな暴力行為が発生した場合は、「学校安心ルール」や本市指針に則り組織的に対応する。</li> </ul>	A

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級に「学校の決まり」「学校安心ルール」を掲示し、常に意識できるようにする。きまりを守りにくい児童には、一人一人に合わせた継続的な指導を行う。</li> <li>・ 事象が発生したときに、教職員全員で情報を共有し、必要に応じてケース会議を設ける。</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向 1-2、不登校への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不登校児童や不登校傾向にある児童について教職員で共通理解し、区役所、SSW、SCなどとの連携を図り、問題事象の解決を図る。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事象が発生したときに、教職員全員で情報を共有し、必要に応じてケース会議を設ける。</li> <li>・ 毎月、児童理解研修会を行い、不登校児童についての情報を共有する。</li> </ul>	
<p>取組内容④【基本的な方向 2-1、道徳教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「あいさつ日本一」を合言葉に、児童朝会や日々の指導を通して、児童同士、教職員、PTA、地域の方、来校者に「自ら進んであいさつをする」という意識を高める。</li> <li>・ 児童会（委員会）活動を計画的に実施する。</li> </ul>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎朝、教職員による登校指導を行い、はぐくみ隊やPTA代表の方を児童に紹介し、地域の方にあいさつができるように促す。</li> <li>・ 児童会を中心にあいさつ強調週間を設けるなど、目的意識をもって「あいさつ」に関する取組を進める。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>取組内容①</b></p> <p>年度当初の職員会議にて、「学校いじめ防止基本方針」について教職員内で共通理解を図った。</p> <p>学期ごとにいじめアンケートを実施し、校内で当該児童への聞き取りや事後指導を確実に行った。1学期のいじめアンケートの認知件数は15件、2学期は11件、3学期は5件と毎学期減少した。当該児童間で合意形成をする場面を設定したり、学校組織全体で情報を共有したりして学期末にすべて解決している。</p> <p>1学期の「いじめについて考える日」では、全校集会にて絵本教材を用いて学校全体でいじめについて考えたり、各学級で特別の教科・道徳で考えを深めたりした。また、2学期には人権啓発キャッチフレーズに取り組み、日々いじめや人権に対しての意識を高めた。</p> <p>アンケート項目「いじめは、どんなことがあっても絶対にいけないことだと思う」では、最も肯定的回答をした児童の割合は、1回目（全学年対象・学校アンケート【以下、学校】）94.5%、2回目（3～6年生対象・小学校学力経年調査【以下、経年】）94.9%と上昇したが、年度目標の指標には達しなかった。</p>	

#### 取組内容②

アンケート項目「学校に行くのは楽しい」では、肯定的回答をした児童の割合は、1回目（学校）94.9%、2回目（経年）94.1%と、年間を通して年度目標の指標を上回った。学校行事において、児童の考えや発案を内容に組み込むよう工夫してきたことをはじめ、各学級での受容的で楽しい雰囲気づくりに努めてきたことが、成果として表れた。

学校アンケート項目「学校や学級のきまりを守ってすごしている」では、肯定的回答をした児童の割合は、1回目 94.8%から2回目 97.3%と上昇した。学校生活を送る誰もが気持ちよく過ごすことができるよう、4月に「学校生活のきまり」を各学級で担任が説明をして配付し、各学級教室や特別教室に掲示することで常に意識できるようにした。全教職員が連携しながら児童の指導にあたった成果が表れた。

#### 取組内容③

今年度 1 学期の不登校児童は 6 名（不登校傾向のある児童も含めると 9 名）、2 学期は 6 名（傾向のある児童も含めると 8 名）、3 学期は 2 月末時点で不登校児童は 6 名（傾向のある児童も含めると 10 名）である。

学校と SSW や北区役所・子育て支援室等との連携や、校内での教職員による支援により、昨年度よりも登校できる日数が増え改善傾向がみられる児童が複数名いた。一方で、3 学期になり欠席が増えている児童もいる。関係諸機関と児童や家庭の情報について情報共有したり、専門的な観点からの協力を得たりしながら、児童が社会的に自立できるよう継続して取り組んでいる。

「不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる」ことを目指して取り組んだことで、改善傾向のある児童もいたが、総数的には横ばいになった。また、「前年度不登校児童の改善の割合を増加させる」についても同様である。

#### 取組内容④

学校アンケート項目「先生や友達にあいさつをしている」では、肯定的回答をした児童の割合は、1回目 97.1%、2回目 98.5%であった。「旗当番の方や地域の方にあいさつをしている」では、肯定的回答をした児童の割合は、1回目 93.4%、2回目 95.4%であった。どちらの項目も1回目よりも上昇し、ともに年度目標の指標を上回った。

あいさつについては、全教職員が日々登校指導や学級指導を行った。代表委員会児童が主体となり「あいさつ強調週間」を計画し、1 学期（6 月 16 日～20 日）、2 学期（9 月 22 日から 26 日）、3 学期（2 月 16 日～20 日）に実施した。1 学期は素敵なあいさつができた児童に「ミニ表彰状」を手渡す取組を、2 学期は上手なあいさつで「あいさつの木」をみんなで育てていく取組を、3 学期は「あいさつ BINGO」カードを配付し児童が自分で目標を立ててあいさつできるような取組を行った。3 月には、はぐくみ隊の皆様へのお礼の会も予定している。これらの取組や教職員による日々の指導により、アンケートでは肯定的な回答の高まりが見られ、児童はあいさつをすることのよさや楽しさを感じることができている。

## 次年度への改善点

### 取組内容①

中学年・高学年の児童に比べ、低学年児童において「いじめは絶対にだめだ」という意識を強くもたせることに課題が見られた。指標を達成できるよう、文部科学省の「いじめに対する理解を促す」教材や、道徳科において、内容項目「A：善悪の判断」や「B：友情・信頼」に該当する教材等を活用し、児童の発達段階・実態に適した授業や指導を今後も行う。

### 取組内容②

引き続き、児童の実態把握に努めていく。児童がよりよく学校生活を送ることができるよう、「学校のきまり」「学校安心ルール」に則って、必要に応じた指導をしていく。また、児童にとって学校が楽しい場所になるよう、学習面や友達関係など継続的に支援していく。

### 取組内容③

今年度末より、次年度の対応策として大阪市の制度利用の検討を進めている。今年度中から先行事例校に施設見学に行ったり、運営方法についての情報収集を行ったりし、環境の整備を始めている。次年度は、不登校児童への体制や環境を今年度以上に整え、それぞれの児童のもつ背景や課題の解決につなげられるよう支援していく。

### 取組内容④

「あいさつ強調週間」では、児童会のみで取り組む内容もあったため、次年度は児童会を中心として児童会活動と委員会活動が連携して学校全体として取り組んでいけるよう計画する。また、「あいさつ強調週間」期間以外でも、児童が自発的に「自分から」「すすんで」「気持ちのよい」あいさつをできるように、引き続き指導を行う。

## 大阪市立西天満小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート②)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を <u>57%以上</u>にする。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より <u>1 ポイント向上</u>させる。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 <u>85%以上</u>を維持する。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 <u>80%以上</u>を維持する。</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を <u>77%以上</u>にする。</li> <li>○ 日本漢字能力検定を受検し、合格率を <u>90%以上</u>にする。</li> <li>○ 学校アンケートにおける「必要に応じて手洗いをしていますか」の項目において、児童の肯定的な回答の割合 <u>90%以上</u>を維持する。</li> <li>○ 学校や地域の特色について探求し、説明できる子どもを育てる。</li> </ul>	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4-1、言語活動・理数教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日記「たくましくのびていこう」の取組を通じて、豊かな表現力を身に付けることができるようにする。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日記「たくましくのびていこう」を毎日継続して意欲的に取り組めるよう日々指導を続ける。年度当初には、書き方やページ活用の仕方についての日記指導を行う。(1 か月で 1 冊、年間 12 冊、6 年間で 72 冊)。</li> </ul>	A
<p>取組内容②【基本的な方向 4-1、言語活動・理数教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字の意味をしっかりと理解させ、文章や会話の中で正しい日本語が使えるようにするために、学級で毎日少しずつ漢字の学習を進める。また、2 学期までに漢字の学習を終え、3 学期は、漢字を「読む」「書く」という知識量のみならず、漢字の意味を理解し、文章の中で適切に使えるようにする。</li> </ul>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全児童が日本漢字能力検定を受検し、合格率を <u>90%以上</u>にする。</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向 4-2、「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪市の授業スタンダード「3つの学 bee」（「自分の考えを形成して、表現したり創造したりする学び」「自らの考えを広げ深める対話的な学び」「興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、振り返って次につなげる学び」）を進める。</li> </ul>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校アンケートの「授業のはじめに目標が示されていたと思いますか」「学習内容を振り返る活動をよく行っていますか」、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を <u>57%以上</u>にする。</li> </ul>	
<p>取組内容④【基本的な方向 5-1、体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動に親しみ、安全に気を付けて、意欲的に取り組める場を提供する。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なわとびチャレンジ、かけ足チャレンジなどの取組を計画的に実施する。</li> <li>児童が自身のがんばりを視覚的に把握できるよう、がんばりカードや資料等を用意し、意欲をもって継続して活動に取り組めるようにする。</li> <li>体育朝会を <u>年間 10 回以上</u>実施し、運動に関する意欲を高める。</li> </ul>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5-2、健康教育・食育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身の健康や身近な人の健康に気を配り、基本的な生活習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣チェックを <u>年 2 回以上</u>実施する。</li> <li>朝会や学級活動、保健・栄養指導を通して手洗いうがいの大切さを適宜指導する。</li> <li>毎月保健だよりを発行する。学校アンケート「必要に応じて手洗いをしていますか」という項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した者の割合 <u>90%以上</u>を維持する。</li> <li>栄養教諭等による食育を推進する（全クラスの授業、食育・給食だよりの発行、毎日の給食についてHPに掲載）。</li> </ul>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向 4-2・2-5、「主体的・対話的で深い学び」の推進・多文化共生教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが住んでいる町について「好奇心」をもって探求し、表現（説明）できる子どもたちを育てる。自分の町や市に誇りを持ち、社会の平和を願い、地域や社会の発展に寄与する態度を育てる。そのために、生活科や総合的な学習の時間を活用し、計画的に取り組むようにする。</li> <li>学校や地域の歴史や文化等について学んだことを発表する機会を設ける。</li> </ul>	A

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校アンケート「西天満小学校や自分の住んでいる地域が好きですか」の肯定的回答 <u>90%以上</u>を維持する。</li> </ul>	
<p>取組内容⑦【基本的な方向 4-3、英語教育の強化】</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「小学校低学年からの英語教育」として、全学年週 <u>1～2回</u>、英語タイムを実施する。</li> <li>小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 <u>80%以上</u>を維持する。</li> </ul>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>取組内容①</b></p> <p>「たくましくのびていこう」の指導については、全学年で年度当初に、書き方についてのページ（「えらんでみよう」「つかってみよう」等）の活用の仕方について指導を行った。また、朝の会や学級通信などで日記内容の紹介を行ったり、学校行事実施後すぐに書く時間を設けたりして、児童が年間を通して能動的に書くことができるよう工夫した。</p> <p><b>取組内容②</b></p> <p>令和8年1月23日（金）に日本漢字能力検定を実施した。全体の合格率は89.9%と年度目標の指標には達しなかった。漢字の意味や読み方・画数等を理解して正しく使えるよう日々漢字指導に努め、2学期末までに当該学年の漢字の指導を終えた。定期的に漢字の小テストを行い、漢字を読み書きする力の定着を図った。</p> <p>理数教育の充実を図った結果、経年調査アンケート「理科の勉強は好きですか」の項目では、肯定的回答の児童の割合は、89.5%と年度目標の指標を上回った。また、経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比は、いずれの学年においても1.1ポイント以上上回った。また、年度目標の指標も4.5ポイント上回った。</p> <p><b>取組内容③</b></p> <p>学校アンケート項目「授業のはじめにめあて（目標・ねらい・課題）が示されている」では、最も肯定的な回答をした児童の割合は、1回目82.4%、2回目83.3%であった。学校アンケート項目「授業の最後に学習の振り返りをよくしている」では、最も肯定的な回答をした児童の割合は、1回目62.3%、2回目66.3%であった。アンケート項目「授業中、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」では、最も肯定的な回答をした児童の割合は、1回目（学校）63.7%、2回目（経年）70.2%であった。いずれの項目も、年間を通して年度目標の指標を上回った。</p> <p>また、校内研究部会では、2学期までの指導方法や本校の子どもたちの課題について全教員で協議し、3学期の授業改善に努めた。各教科の学習において、中心となる学習内容を児童に把握させて、見通しをもって学習課題に取り組めるようにした。児童自身</p>	

が学習方法を選択したり調整したりして学習に取り組み、最後に振り返りをするという「自己調整」を基本とした授業デザインの学習スタイルに取り組んだ。

#### 取組内容④

アンケート項目「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」では、最も肯定的回答の児童の割合は、1回目（学校）71.4%、2回目（経年）75.0%と上昇したが、年度目標の指標には達しなかった。

体育朝会を2月末までに9回実施し、3月の実施予定を含めると年度末までに目標を達成する見込みである。体育朝会では、体幹を鍛え体の調整力を高める運動や、ラジオ体操、水泳の泳ぎ方の練習、大縄跳び等、様々な活動に取り組んだ。

11月に「なわとびギネス」、1月に「かけ足チャレンジ」、2月に「たてわり大縄大会」を実施し、年間を通して児童の運動に関する意欲を高める取組を行った。「なわとびギネス」「かけ足チャレンジ」では、児童が目標をもって運動に取り組めるよう、児童全員にがんばりカードを配付し活用した。がんばりカードを用いたことで、児童が自分自身で目標を設定して運動に取り組んだり、よりよくしていこうと自発的に活動に取り組んだりする姿が見られた。

#### 取組内容⑤

学校アンケート項目「健康に過ごすために、学校で必要に応じて手を洗っている」では、肯定的回答の児童の割合は、1回目94.9%、2回目96.5%と上昇し、年度目標の指標を上回った。

手洗いやうがいの大切さについては、児童朝会や保健・栄養指導、学級指導等で継続的に指導した。健康委員会による委員会活動では、月1回「せいけつしらべ」を実施して子ども自身が生活習慣を振り返ったり、児童集会や学校保健委員会にて「はみがき」「目の健康」について発表をしたりし、全児童が健康な生活を送ることができるよう促した。また、給食委員会による委員会活動では、「給食週間」で給食の歴史について発表したり、給食に関するクイズを出題したりして、児童の食に対する関心を高めた。

月1回、保健だよりと給食だよりを発行し、各家庭にプリント配付するだけでなく学校ホームページにも掲載し、健康や食生活等について啓発する活動を行った。

#### 取組内容⑥

学校アンケート「西天満小学校や、自分の住んでいる地域のことが好き」の項目では、肯定的回答の児童の割合は、1回目94.9%、2回目96.9%と上昇し、年度目標の指標を上回った。

各学年、児童の実態にあった各教科において地域や学校のことを探求的に学ぶ活動を通して、地域愛や学校愛を育めるよう取り組んだ。1年生は、道徳科の学習で、登校時間の旗当番や地域の見守り隊の方々の存在に触れ、地域の人々とのつながりの大切さについて考えた。2年生は、生活科の学習「町たんけん」で、地域の飲食店や神社、幼稚園等を訪問して仕事や働く人について知ったり、年間を通して地域の企業と連携して植物の栽培に励んだりした。3年生は、総合的な学習の時間で、自分たちの住む地域をよりよくしていくという視点で、地域で安心して暮らせるような「やさしい町づくり」について考えた。4年生は、社会科の学習「大阪府に伝わる祭りや行事や先人たち」で、

天神祭関係者の方をゲストティーチャーに招き、教科書だけでは知ることができない生の情報を学んだ。5年生は、総合的な学習の時間で、認知症についての出前授業を行い、学んだことを生かした地域向けのポスター作成に取り組んだ。6年生は、総合的な学習の時間で、ニュース動画で学校や地域のよさを発信する学習「西天満放送局」を、OEN（Osaka city Education Network）を活用して行った。民放放送局の出前授業にて取材方法や映像での伝え方について学び、本校の特色ある取組（琴や書の教室）や、地域の行事（天神祭の神童）等について、班ごとに1分程度（全体で約10分）のニュース動画を制作した。また、この取組については、2月26日の大阪市教育フォーラム「大阪市探究学習博覧会」にて、全市向けに発表を行った。

#### 取組内容⑦

アンケート項目「外国語（英語）の勉強は好きですか」の項目では、肯定的回答の児童の割合は、1回目（学校）85.7%、2回目（経年）96.1%と年間を通して年度目標の指標を上回った。

年度当初に、英語タイムの年間計画を教職員間で共有し、全学年週1～2回実施した。英語が楽しく学べるように、歌・絵本・フォニックス等の活動を組み合わせて取り組んだ。また、5・6年生の外国語、3・4年生の外国語活動では、英語専科教員とC-NET（Osaka City Native English Teacher）が密に連携した授業を行ったり、ルーブリック評価を用いて児童と指導者が達成目標を共有して学習に取り組んだりしたことで、児童が意欲的に授業や活動に参加することができた。

#### 次年度への改善点

#### 取組内容①

児童が書くことへの意欲を保ちながら毎日の日記に取り組むことができるよう、指導者と児童とで日記を書く目的について共有する機会を図る。毎日書くことで、文章力や語彙力といった言語能力や表現力、自身の行動や思考を客観視するメタ認知能力等、様々な力を身に付けられるということを児童が理解できるよう、日々の日記指導を通して児童へと働きかけていく。

#### 取組内容②

日々の新出漢字の学習から、漢字の書き取りだけでなく、意味理解や語彙の活用、日常生活での使用場面を意識した指導を行い、次年度においても2学期末までに当該学年の漢字の習得を完了させ漢字の定着と活用力の向上を図る。3学期は漢字検定に向けての学習を行い、学習への取り組む姿勢を評価しながら、児童が達成感をもって漢字学習に励めるようにする。

#### 取組内容③

2025年9月、文部科学省・中央教育審議会より、次期学習指導要領改訂に向けての教育課程企画特別部会における「論点整理」が示された。これを受けて、校内にて学校長による内容の要旨についての研修会を実施し、全教員で内容の把握を行い、今後の教育の動向について共通認識をもった。次年度においては、この「論点整理」を念頭に置

き、学校の教育活動を計画・実施していく。また、次年度は「大阪市教育振興基本計画」改訂の年でもあるため、本校の課題に関連する項目を重点に「運営に関する計画」を策定し、「深い学びの実装」を実現できるよう教育活動に取り組んでいく。

#### 取組内容④

体育朝会の内容や、運動に関する取組の実施時期や頻度について、より児童が主体的に運動に参加できるよう見直しをする。個々の活動が単発的にならないよう、年間を通して児童が運動に対して達成感を得たり、自発的に活動したりすることができるような方法を、校内体育部会を中心に検討する。

#### 取組内容⑤

委員会活動・児童会活動においては、児童が自分たちで学校の課題を見つけ、解決するための方法を話し合い、行動していくことが重要である。次年度も、基本的な生活習慣を身に付けられるよう、児童集会での発表活動も活用して児童に働きかけたり、学校ホームページに情報を掲載して家庭に発信したりする。

#### 取組内容⑥

今年度の各学年での取り組みが、今年度限りの単発的なものにならないよう、各学年において次年度への引き継ぎを確実にを行うようにする。また、次年度においては、今年度の学習との関連を意識して学習の単元構成を工夫し、系統性をもった指導を行うことで、児童が地域愛や学校愛をより育ていけるようにする。

#### 取組内容⑦

次年度も、計画的に英語タイムを実施する。また、英語タイムと外国語（活動）の授業との連携を続け、より児童が英語に親しみがもてるよう、活動内容や授業構成を工夫していく。

## 大阪市立西天満小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート③)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>【ICTの活用に関する目標】</b></p> <p>○ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の <u>52%以上</u>にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。]</p> <p><b>【教職員の働き方改革に関する目標】</b></p> <p>○ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を <u>85%以上</u>にする。</p>	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6-1、ICTを活用した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GIGA スクール端末を活用した学習を習慣化し、端末を文房具同様に身近なものとして扱い、学習データを蓄積することで個別に最適化された学習システムを活用できるようにする。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 人 1 台学習者用端末の年間活用率 <u>90%以上</u>を維持する。</li> <li>デジタルドリル「navima」については、各学年の実態、学習状況等に応じて、各授業担当者（学級担任、専科教員等）がデジタルドリルの内容を把握して、取り組む課題を精査し、効果的に活用する。</li> </ul>	A
<p>取組内容②【基本的な方向 7-1、働き方改革の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>印刷時間を短縮するためにペーパーレス化を進める。(環境保護も視野に入れて)</li> <li>ゆとりの日を年間 <u>12 回以上</u>確実に実施する。</li> <li>専科指導を充実させ、教員の授業の空き時間の確保に努める。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も夏季休業中等の学校閉庁日を <u>10 日以上</u>設定し、教職員が働きやすい環境を整備し、長時間勤務の解消を図る。</li> </ul>	A
<p>取組内容③【基本的な方向 8-2、大阪市子ども読書活動推進計画に基づいた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>週 3 回</u>、朝の時間に読書タイムを設け、読書習慣が身につけられるようにする。</li> <li>図書委員会で、読書の啓発に関する取組を行う。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪市小学校学力経年調査において、「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 <u>80%以上</u>を維持する。</li> </ul>	A

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 取組内容①

1人1台端末の年間活用率は100%と年度目標の指標を上回った。また、年度目標「授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする」は、12月末で78.3%と、年度末まで指標を達成する見込みである。

毎日、児童がスクールライフノート「心の天気」に自分の気持ちを入力するよう指導した。教職員が児童の入力状況を確認し、児童の心の状態を把握し、児童との関わりや指導に活用した。

1人1台端末の学習における活用については、各学年、次のような取組を実施した。低学年児童では、デジタルドリル「navima」を用いて、子ども一人一人の学習進度や学習到達度等に応じながら、授業の振り返りや復習に活用した。中学年児童では、共同編集機能を用いて班で協力してスライド作成を行ったり、互いのスライドを比較して相手にアドバイスを伝えたりして、協働的な学びをすすめるためのツールとして活用した。高学年児童では、グループ作業ツールの課題機能を用いて国語の音読練習に取り組んだり、学習支援ツールを用いて自己の学びを調整しながら学習した際の学習の足跡を記録したりして活用した。

### 取組内容②

学校閉庁日を夏季休業中7日間、冬季休業中3日間設定し、教員の長時間勤務や時間外勤務時間の縮減に努めた。年度目標「年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合」は、1月末時点で92.0%と年度目標の指標を上回った。

職員会議や各部会・研究討議会等で資料のペーパーレス化に取り組んだ。長期休業中の児童の課題では、学校指定寄付金を活用した学習課題を用意したり、印刷して配付していた解答をクラウド上で共有したりしたことで、印刷したプリントの枚数を平均で54.8%削減することができた。

ゆとりの日（No 残業 Day）は、月1～2回実施できた。専科指導については、今年度も各学年において実施し、教員の空き時間を確保することで仕事の効率化を図った。また、時差勤務制度の導入に伴い、教職員間での就業時間に対する意識は向上している。

### 取組内容③

経年調査アンケート「読書は好きですか」では、肯定的回答は90.8%と年度目標の指標を上回った。

朝の時間に「読書タイム」を実施し、児童が継続的に本を読む習慣が身に付くようにした。また、週1回学校司書が図書室に在室し、どの休み時間にも図書室を訪れることができる「図書館1日開いてんデー」、月1回PTAによる各学級での「読み聞かせ活動」を実施した。学校司書と連携し、学習と関係する図書室の本を学級に設置し、並行読書をしたり、調べ学習に用いたりして、読書活動の活性化に努めた。学校図書館推進活用事業も利用し、北図書館より学習に関連する図書を一括貸出し活用した。

図書委員会による委員会活動では、児童集会での発表、おすすめの本のポスター紹介活動、読書週間での「読書ビンゴ」、各学級での読み聞かせ活動等を行った。いずれの活動も、児童が主体的に計画して実施し、読書や本に親しむ環境づくりを工夫した。

## 次年度への改善点

### 取組内容①

次年度改訂される「大阪市教育振興基本計画」の素案では、「学習者用端末を活用して、単に調べるだけでなく、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組」として、「自分のペースで理解しながら学習を進める」ことや、「自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりする」等の項目が検討されている。次年度は、これらを念頭に置き、大阪市小学校教育研究会視聴覚部の資料や、校内 ICT 推進委員会による立案等を中心に、各学年において習得させたい情報活用能力を、系統性をもって指導できるよう整え、各教科の学習において実施する。

### 取組内容②

引き続き、職員会議や職員作業、各部会の内容や日時の設定の見直しをすすめる。また、今年度、全教職員で共通認識をもった「勤務時間内の人員で対応が必要な学校全体の業務について、各自の勤務時間内で協力して取り組むこと」「学年団等のみに限らずフォローし合うこと」をより意識し、全教職員が勤務時間を尊重し合い勤務に努める。

### 取組内容③

次年度も、国語科での並行読書、総合の時間での調べ学習等を継続して行う。また、音楽科や社会科で教科書に登場する人物の伝記を、算数科や理科で図鑑や科学絵本を活用する等、様々な教科で図書と学習との関連付けに取り組み、児童の読書意欲の一層の醸成を図る。